

### 3. モデルコース設定のための現地調査の実施

#### 3-1 与論島の現地調査とモデルコース(案)

与論島の現地調査は、車いす利用者を中心とするユニバーサルツーリズム客層を対象として、与論島のモデルコースの検討とモニターツアーへ向けた受入れ状況の確認を目的とした。

##### (1) 現地調査実施概要

与論島内の主要な観光スポットである観光施設や景勝地および便益施設を対象に、現地の観光および保健福祉担当の行政関係者とともに、車いす利用者による島内観光を想定した現地調査を実施した。

現地調査は、以下の各点の確認を中心に実施した。

- ・施設や景勝地の入口から内部へのアクセス（段差の有無、通路幅員、階段やスロープ等）
- ・海浜や公園、施設の公衆トイレの状況（車いす利用の可否等）
- ・観光する際の最適な場所や楽しみ方等

与論島の現地調査概要を以下に示す。

①実施日時:令和3年11月9日(火) 13:00~18:00

②集合場所:与論空港施設前

③参加者:(委員)与論町商工観光課、与論町町民福祉課、(福)与論町社会福祉協議会、事務局

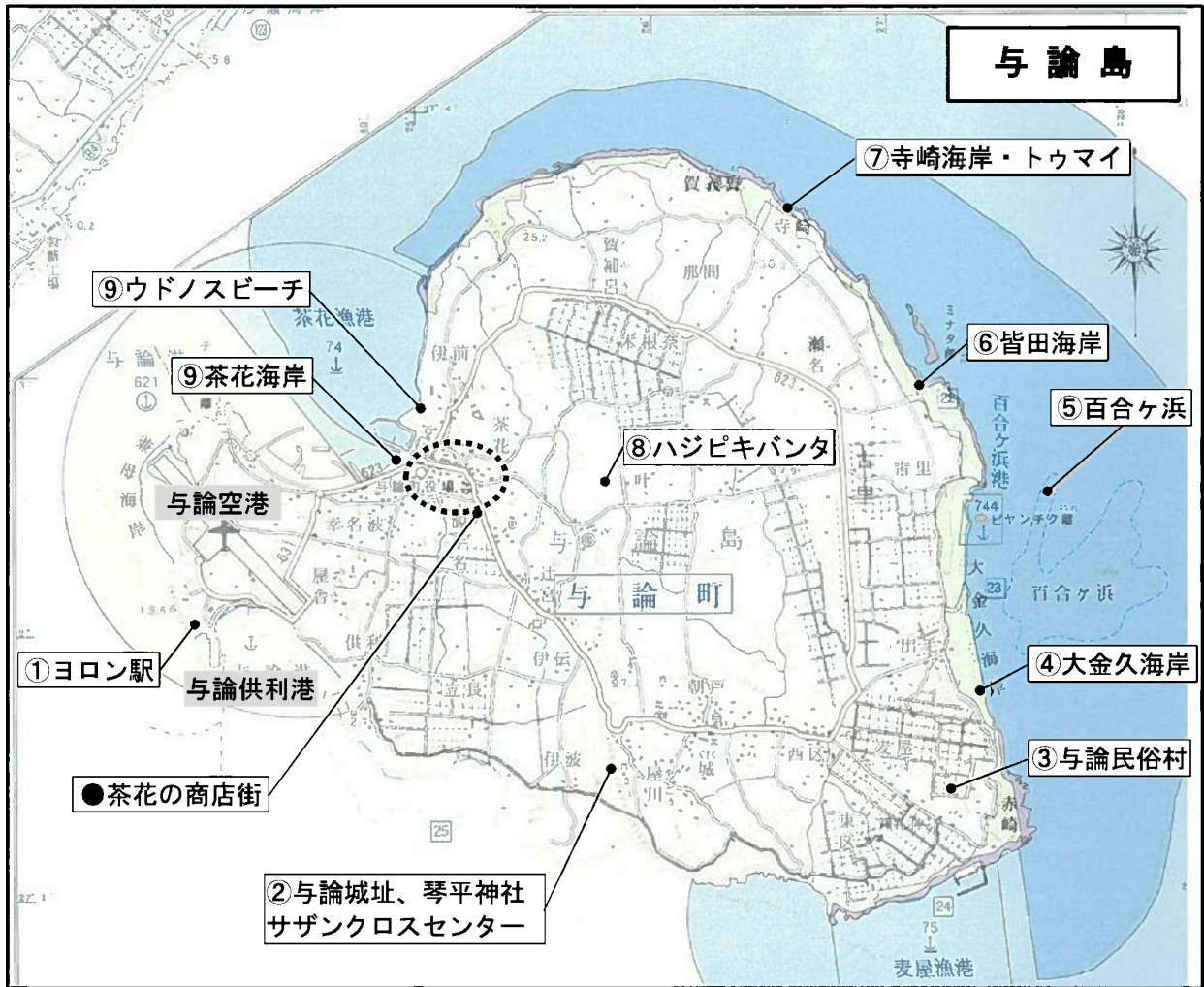
④調査方法:与論町の社会福祉協議会より車いすを借り、人が乗った状態で調査対象地へのアクセスや観光のための移動、観光時に想定される動きについて検証を実施。

⑤現地調査行程

##### 【与論島行程】

時間	場所
13:00	●与論空港 集合
13:05~13:20	① ヨロン駅
13:35~14:15	② 与論城址、琴平神社、サザンクロスセンター
14:30~15:00	③ 与論民俗村
15:15~15:30	④ 大金久海岸
15:40~15:55	⑤ 百合ヶ浜（海岸の入口付近のみ）
16:10~16:25	⑥ 皆田海岸
16:35~16:45	⑦ 寺崎海岸・トゥマイ
16:55~17:10	⑧ ハジピキバンタ
17:25~18:00	⑨ ウドノスピーチと茶花海岸
	●解散

【与論島現地調査実施箇所】



## (2) 現地調査結果

### ①ヨロン駅: 駅舎を模したモニュメントで、線路と機関車の車輪が設置されている観光ポイント。

#### 現地調査所見

- ・ 駐車場から施設上へのスロープと周辺の遊歩道は勾配がきつく危険で段差も多い。
- ・ 施設入口部分のわずかな段差やスロープと併設されている階段の踏面の奥行きが狭く、車いす利用の場合、プラットフォームを模した部分へは上がることができるが、それ以外の場所へのアクセスは難しく、施設の先にある遊歩道は急こう配や手すりが未設置等の問題がある。



入口部分のわずかな段差がネックになっている。スロープは勾配がきつく、階段の踏面が狭いため、車いすは介助者付きでも利用が困難。



プラットフォーム部分は縁石の段差があるため、車いすを大きく傾け後輪で上がる。施設の奥から続く遊歩道は、勾配が非常に急で、手すりが無いため、介助者付きでも車いす利用は難しい。

### ②与論城址、琴平神社、サザンクロスセンター: 琉球式の城壁が残る与論島の史跡。

#### 現地調査所見

##### (駐車場からのアクセス)

- ・ 駐車場からサザンクロスセンターの間の神社の参道は、叩き仕上げの石材舗装の目地と石材の段差による凹凸で、車いす利用時は衝撃が激しくなり、施設入口のスロープまでは自動車移動が必要。

##### (サザンクロスセンター)

- ・ エレベーターが設置されているため展望台と各階にアクセスできるが、エレベーターのボタン位置は車いす利用者にはやや高い。
- ・ 5階の展望フロアは、車いす利用の場合、窓の位置が高く、海の遠方や島内全体の眺望ができない。
- ・ 2階の車いす用トイレは入口扉が重い、内部は広く現地調査では利用者1名で転回～利用が可能。
- ・ 2階～1階へのスロープは、途中で平坦なフロアが無いため、介助者のいない車いす利用の場合、途中で止まって展示を見たり休憩したりすることが難しく、利用時の危険性も感じられる。
- ・ 1階の展示は、高さや奥行きが車いす利用者には見づらいものとなっているため、車いす利用でも見やすい細かな工夫や配慮が必要な状況。

(与論城址)

- ・通路は、コンクリートのスロープより砂利敷きのほうが移動は容易だが、車いす利用者への衝撃は小さくない。昔の城址の姿を維持するためには、園路舗装は難しいものと考えられる。

(琴平神社)

- ・現地調査では、神社境内へ至る段差は介助者が必要になるが、土俵周辺の芝生は車いす利用者単独の移動が容易だった。



神社の参道部分は、敷石の凹凸が車いす利用者には衝撃になる。サザンクロスセンターのエレベーター内の各フロアのトイレの案内は非常に便利。



5階は腰壁の高さが車いす利用者の目線と重なり眺望が妨げられる。2階トイレは空間的な余裕がある。



2階～1階のスロープが長いので、車いす利用者は介助が必要。1階の展示物は、車いす利用者には奥の部分が見えづらいため、設置角度等の工夫が必要。



車いすやシニアカー用とされているが、勾配があり、砂利敷きのため、介助者が付いてもスムーズな移動は難しい。琴平神社は、入口の段差が大きい。

③与論民俗村:茅葺屋根の建物や様々な生活器具を通して与論島の少し昔の暮らしを伝える歴史文化施設。

現地調査所見

- ・(施設関係者の話) 車いすの高齢の観光客はよく来る。施設内の段差は添乗員とスタッフが人力で対応するが、車いす利用者が大勢の場合は困難。
- ・古い建物や施設全体の雰囲気が壊れるため段差は敢えて解消していない。
- ・駐車場から入口までは、通路幅員が狭く、路面は凹凸が多い。



施設内の階段や段差は、車いすを持ち上げて移動する。



芝生の斜面等もあるため車いす利用者は介助が必要。施設内の展示は車いす利用者にも見やすい。

④大金久海岸:百合ヶ浜にわたるグラスボート他マリンレジャーの拠点となっている与論島を代表する海岸。

現地調査所見

- ・駐車場が整備されていないため、駐車しづらい。
- ・広く大金久海岸～百合ヶ浜を見渡せ、植栽の枝の間からの海岸の眺望が非常に良い。
- ・展望台に手すりが無く、広い眺望が確保されるが車いす利用者等の安全確保は重要。
- ・地面は芝生敷きで車いすの移動は容易。設置されているベンチも車いすから移動しやすい高さになっている。



⑤百合ヶ浜:大金久海岸の対岸の海上に春から夏の中潮～大潮の干潮時に見ることができる砂浜。グラスボート渡ることができる。

現地調査所見

- ・ 駐車場は広く車いす対応のトイレがある。
- ・ 駐車場から海岸までの距離が長く、通路の砂が深いため歩きにくく介助者が車いすを移動させる際の操作性が悪い。
- ・ 砂にタイヤが埋まるため車いす利用者の単独移動は困難。



海岸へは通路の砂が深く、車いすの車輪が砂に埋まり、介助者による移動でも深い轍(わだち)ができる。

⑥皆田海岸:小さな無人島「皆田離」対岸に位置し、シーカヤックやシュノーケリング等が楽しめる海岸。

現地調査所見

- ・ 海岸横の漁港まで自動車アクセスが可能だが、道路幅員が狭く、漁港のスロープが滑りやすいので、スロープ上にアクセスすることは危険。
- ・ 漁港の手前にあるトイレは車いすに対応。



⑦寺崎海岸・トウマイ:隣り合う寺崎海岸とトウマイ海岸は島を代表する海岸の1つで、映画「めがね」の有名な体操シーンやかき氷屋の場面は、トウマイ海岸で撮影された。

現地調査所見

- ・ トイレは車いす対応で他の場所のトイレと同様の仕様になっており、現地調査では個室内部で車いすの転回ができた。
- ・ 漁港のスロープ上部まで自動車のアクセスは可能だが、波が上がって来て濡れる可能性もある。



⑧ハジピキバンタ(舵引き丘): 与論島誕生の神話の場所、島内や沖縄と奄美群島の島々を見渡せる。

現地調査所見

- ・ 駐車場から展望台のスロープの勾配はきついが、展望台から島内を 360 度眺望できる。
- ・ 車いす利用者には、説明表示の高さが 360 度の眺望の妨げになる。
- ・ 現地調査では、説明表示の背面に回り込むと眺望できたが、説明表示逆側の植栽は、車いす利用者の目線より高いために眺望が妨げられた。
- ・ 展望台から先は階段になっているので車いす利用者が遊歩道に降りることはできなかった。



展望台までの通路は勾配がきつく長い。説明表示が車いす利用者の目線の高さになってしまう。

⑨ウドノスビーチ、茶花海岸: 中心市街地の茶花地区から徒歩で行くことができる海岸。

現地調査所見

(ウドノスビーチ)

- ・ 車いす対応のトイレとスロープ、駐車場が整備されている。
- ・ 駐車場から海岸までの距離が比較的短く、砂は茶花海岸よりも浅い。車いす利用者は介助者 1 名で波打ち際の手前までのアクセスができる。

(茶花海岸)

- ・ 道路から駐車場のアクセスは良いが海岸の砂が深い。隣接の漁港から広く海岸を見ることは容易。



ウドノスビーチへの道は砂がやや深いため介助者が必要だが、波打ち際の近くまでアクセスできる。



茶花海岸は砂が深く駐車場から波打ち際まで距離が長い。隣接する漁港からは海岸全体の眺望が可能。

●茶花の商店街:少し懐かしい雰囲気を残す商店や飲食店の街並みが見られる与論島の中心市街地。

現地調査所見

- ・歩道幅員は狭いが、ローカルスーパーや路地状の古道があり、車いすでもアクセス可能なルートが設定できれば、買い物や短いまちあるきは可能。



【現地調査で把握された課題】

主要な海岸に同規格の車いす対応トイレが整備され、掃除も行き届いているが、トイレ表示に車いすマークが描かれていないため、車いすに対応しているトイレなのかが分からない。(画像は寺崎海岸のトイレ)



与論島の主要な観光資源の海岸の殆どの砂が深く徒歩でも歩きづらい。車いすを押すことが困難な砂浜もあるので、事前の情報提供などが必要。

(画像左から、百合が浜手前の大金久海岸、ウドノスピーチ、茶花海岸)



(3) 現地調査から得られた与論島のモデルコース(案)

与論島のモデルコース(案)では、現地調査によって把握された課題を踏まえながら、与論島らしさや島の特徴である多くの海浜を楽しむことを念頭に1泊2日のモデルコースを検討した。

具体的には、島内各所で異なる海の眺望を活かしながら、車いす利用者や個人旅行の高齢者、小さな子供連れの家族等の利用を想定し、休憩の頻度を高めながら車いす対応のトイレのある場所を組み込むこととした。また、移動距離を少なめにすることや、茶花の商店街を散策し与論島の日常の生活に触れることとあわせて、雨天時の過ごし方を想定したモデルコースを検討した。



与論島(海の眺望と雨天時の立ち寄り)モデルコース(案)

		時刻		行動予定	備考
		(発)	(着)		
1 日 目	移動	13:20	14:00	0:40 沖縄・那覇→与論島(RAC815)	以下、移動は車両利用を想定
		14:00	14:10	0:10 空港→ヨロン駅	
	観光	14:10	14:30	0:20 ヨロン駅:高台から海を眺望	
	移動	14:30	14:50	0:20 ハジピキバンタへ移動	
	観光	14:50	15:10	0:20 ハジピキバンタ:島内360度の眺望	
	移動	15:10	15:30	0:20 大金久海岸へ移動	
	観光	15:30	16:00	0:30 大金久海岸:百合ヶ浜の遠景を眺望	
	移動	16:00	16:15	0:15 寺崎海岸へ移動	
	観光	16:15	16:30	0:15 寺崎海岸:漁港で目の前の海を眺望	
	移動	16:30	17:00	0:30 宿泊施設へ移動	
	夕食	17:00		チェックイン、休憩、夕食	
2 日 目		10:00	10:00	0:00 ホテル出発	
	移動	10:00	10:15	0:15 ウドノスピーチへ移動	
	観光	10:15	11:00	0:45 ウドノスピーチ:砂浜から海を眺望	
	移動	11:00	11:10	0:10 茶花の商店街へ移動	
	観光	11:10	11:40	0:30 商店街散策と買い物	
	移動	11:40	12:00	0:20 ホテルへ移動	
	昼食	12:00	13:00	1:00 ホテルのレストランで昼食	
	観光	13:00	13:45	0:45 ホテル内から海を眺望、買い物	
	移動	13:45	14:00	0:15 ホテルから空港へ移動	
			14:30	15:10	0:40 与論島→沖縄・那覇(RAC816)

与論島2日目～雨天の場合

2 日 目		10:00	10:00	0:00	ホテル出発	
	移動	10:00	10:15	0:15	与論民俗村へ移動	
	観光	10:15	11:30	1:15	与論の昔の生活文化を体験	
	移動	11:30	11:45	0:15	島内で人気のあるcaféへ移動	
	昼食	11:45	12:30	0:45	caféで昼食	
	移動	12:30	12:45	0:15	サザンクロスセンターへ移動	
	観光	12:45	13:45	1:00	サザンクロスセンターの展示見学	
	移動	13:45	14:00	0:15	空港へ移動	
		14:30	15:10	0:40	与論島→沖縄・那覇(RAC816)	

### 3-2 喜界島の現地調査とモデルコース(案)

喜界島の現地調査は、車いす利用者を中心とするユニバーサルツーリズム客層を対象として、喜界島のモデルコースの検討とモニターツアーへ向けた受入れ状況の確認を目的とした。

#### (1) 現地調査実施概要

喜界島内の主要な観光スポットである観光施設や文化施設、景勝地および便益施設を対象に、現地の観光および保健福祉担当の行政関係者ととも、車いす利用者による島内観光を想定した現地調査を実施した。

現地調査は、以下の各点の確認を中心に実施した。

- ・施設や景勝地の入口から内部へのアクセス（段差の有無、通路幅員、階段やスロープ等）
- ・公園、施設の公衆トイレの状況（車いす利用の可否等）
- ・観光する際の最適な場所や楽しみ方等

喜界島の現地調査概要を以下に示す。

- ①実施日時:令和3年12月20日(月) 9:00~17:00
- ②集合場所:スギラビーチ駐車場
- ③参加者:(委員)喜界町商工観光課、喜界町保健福祉課、(福)喜界町社会福祉協議会、島内民間委員、事務局
- ④調査方法:喜界町の社会福祉協議会より車いすを借り、人が乗った状態で調査対象地へのアクセスや観光のための移動、観光時に想定される動きについて検証を実施。
- ⑤現地調査行程

#### 【喜界島行程】

時間	場所
13:00	●スギラビーチ 駐車場集合
9:00~9:30	① スギラビーチ(公園、トイレ等)
9:50~10:30	② サンゴ礁科学研究所
10:40~11:10	③ 阿伝集落
11:20~11:40	④ テーバルバンタ
11:50~12:15	⑤ 百之台(国立公園)
12:30~13:30	⑥ ゆいカフェ(施設内の検証と昼食)
13:40~14:00	⑦ 大ガジュマル
14:15~14:30	⑧ 荒木・中里遊歩道休憩所
14:45~14:55	⑨ 掩体壕(中里集落)
15:10~15:40	⑩ 埋蔵文化財センター
15:55~16:25	⑪ 喜界島酒造
16:30~17:00	⑫ 朝日酒造
	●解散

【喜界島現地調査実施箇所】



①スグラビーチ:住民にも親しまれている海岸。滑走路と並行する道路は航空機の離発着を見ることができる。

現地調査所見

- ・駐車場横の入口に自動車の侵入を防止するロープが張ってあるため、車いす利用者はステンレス製オブジェのある通路を使ったが、オブジェが低く入りづらい。オブジェの設置意図は不明。
- ・芝生が柔らかいため、車いすを押す際の抵抗が強く、介助者に負担がかかる。
- ・芝生と園路の縁石等の低い段(5cm程度)も車いすの前輪の妨げになる。
- ・トイレは、ドアが開閉式のため介助者の妨げになる可能性があるが、個室で車いすの回転は可能。男性用小便器に手すりが無いため、高齢者等の利用はやや不便。
- ・シャワー室内は段差が多く、車いす利用者がシャワーを使う場合は、車いすが濡れないように別途、シャワー椅子が必要。屋外の水道は足を洗う等の利用がしやすい高さや位置になっている。
- ・舗装された園路の車いす移動はスムーズだが、芝生や砂地では前輪が動かしづらくなり移動が困難。



車いすでも公園内に入りやすい入口が必要。男子用トイレには高齢者用の手すりがあるとよい。



園路の舗装部分は、車いす移動に支障はないが草地や砂地の移動は介助者の労力が大きくなる。

②サンゴ礁科学研究所:国内外のサンゴ礁研究者が設立した日本唯一のサンゴ礁研究に特化した研究所。

現地調査所見

- ・駐車スペースから入口までが遠いので、車いす利用時には玄関近くまでの自動車乗り入れが必要。
- ・入口の階段の蹴上高が最大 20cm程度あるため、物理的な対処方法(スロープ等)が必要。
- ・施設内のトイレは車いすに対応していないため、近隣の別のトイレを利用することになる。
- ・洗面所の手洗いは、車いす利用時の高さなどの問題はない。
- ・施設内の展示は、車いすの場合、視点が低くなるため柵の上の展示等は見づらいが、通路幅、主要な展示台の高さ等は車いす利用者にも楽しめる。
- ・caféの建物はデッキの段差が高いため、物理的な対処方法(スロープ等)が必要。
- ・caféのトイレも車いすに対応していないため利用できない。室内の展示は、車いす利用者にも見やすい高さになっている。
- ・車いす用のトイレは、近くの塩道長浜公園のトイレが考えられる。鍵の管理が可能であれば、近接している早町港臨時フェリー待合室の車いす用トイレの利用の検討が望まれる。



入口の段差が解消できると車いす利用者のアクセスが大きく改善される。



施設内の展示は、車いす利用者にも見やすいが、新設部分のトイレが車いすに対応していない点は残念。

### ③阿伝集落: サングの石垣と昔の道が残る集落景観が残る。シマあるきができるコース。

#### 現地調査所見

#### (トイレ)

- ・集落入口のトイレは車いすに対応する多目的トイレがあり、通路や個室空間にも余裕がある。多目的トイレは、幼児用のベッドや折り畳みイス、オストメイト等も整備されている。
- ・多目的トイレ以外のトイレにも手すりが設置され高齢者の利用等も考慮されており、トイレ全体と周辺の掃除も行き届いている。

#### (集落内の移動)

- ・集落内の道路は、緩やかな傾斜はあるが、車いすの移動は容易で、集落案内のガイド付きであれば、車いす利用者も十分、楽しむことができるものと考えられる。



トイレの通路や個室等内の空間的な余裕もあり、設備類も整っている。



集落内の道路は平坦で自動車も殆ど通らないため、車いす利用者も集落あるきを楽しむことが期待できる。

④テーブルバンタ: 隆起サンゴ礁の島である喜界島を構成するすべての段丘が一望できる高台。

現地調査所見

- ・盛り土による展望台から島内の段丘を見下ろすことができるが、車いす利用者は、展望台上の端部に近づくことは危険で、展望台下では視点が低くなり、柵外の植栽で段丘の広い眺望は困難。
- ・周辺にNITの回線等の埋設があるため植栽の伐採が困難で、車いす利用者が安全に段丘を見るための工夫が必要。
- ・車いすで乗り越えることが困難な道路脇の導水ブロックは、路面排水施設のため改変等が困難。



展望台上部と展望台下部から眺望の様子。入口の導水ブロックが車いすでは乗り越えにくい。

⑤百之台(国立公園): 島の中央部に広がり、太平洋と東シナ海を臨む広大な隆起珊瑚礁の高台地。

現地調査所見

- ・トイレは和式のみのため車いす利用者が使うことができない。公園には上水の送水の課題があり、トイレ整備は上下水道整備の問題と合わせた課題解決が必要。
- ・展望台は、手すりの老朽化、展望台2階へのアクセスが階段のため車いす利用ができないことが分かる。柵外で繁茂する植物の伐採等は、国立公園のため環境保全面での制約が大きい。
- ・公園の整備時期が古く、展望台下の崖地が数年前の大雨水害で崩落する等の安全面の問題も見られるため、公園施設全体の再整備等を視野に入れた抜本的な改善策を検討する必要がある。



公園入口の導水ブロックや芝生の斜面は車いす移動では障壁となる。トイレは車いすには対応していない。



ベンチと手すりが整備された展望スペースは、国立公園内の植物の管理や崖地の崩落等の大きな課題とともに、施設の老朽化や施設が車いすに対応していない等の整備時期に関連する課題が見られた。

⑥ゆいカフェ:農産物加工センター併設のcafe。島内産の農産物を使った軽食と特産品の購入ができる。

現地調査所見

- ・駐車場から車いす用の通路が整備され、入口までのアクセスが容易で施設内の段差等も問題ない。
- ・施設内のトイレは、ベビーベッド等のついた車いす対応で、通路幅員も余裕がある。



駐車場から入口と施設内への車いす利用は、動線が確保され移動がスムーズ。



施設内は、店舗部分からトイレまで問題なく移動できるが、車いす用トイレの案内表示が分かりづかった。

⑦大ガジュマル:高さ17.7m、枝張りの直径42.0m、樹齢は100年を越えるガジュマルの巨木。

現地調査所見

- ・駐車場から車いすで案内表示やベンチまでのアクセスが容易。ガジュマルが大きいので、ベンチから全容を見ることができる。樹木の下草が繁茂しているため、アクセスは道路脇までになる。
- ・車いす用のトイレは、近くに整備中の手久津久集落の公園に新設されるものが利用可能になる。



駐車場からあずまやまで移動が容易で、ベンチは大ガジュマルの全容を見ることができる位置と高さ。

⑨荒木中里遊歩道休憩所:くじらを見ることができる展望台、車いす対応のトイレが整備されている。

現地調査所見

- ・車いす用トイレは、アクセスや利用の物理的な問題は特に見られなかった。
- ・展望台は、車いす利用の場合、視点が低くなるため柵外の植栽で、海面を見渡すことが出来ない。



空間的な余裕もある車いす用トイレが整備されている。展望台は低いため車いすでは海を見られない。

⑩ 掩体壕：敵の攻撃から戦闘機を守る目的の格納施設。第二次世界大戦時の戦争遺跡で、喜界島で唯一の有蓋コンクリート製。主に戦闘機の整備場として使用。

現地調査所見

- ・近くまで自動車アクセスは可能だが、園路舗装等が無いので、地面の草や石等で車いす利用時は近づいての見学がやや困難。



⑩ 埋蔵文化財センター：10～15 世紀の喜界島を代表する遺跡(国指定史跡)と廃校を利用した埋蔵文化財の展示と収蔵施設。

現地調査所見

- ・校舎前まで自動車の乗り入れは可能だが、校舎入口までは、土舗装で傾斜のある通路や段差が各所にあり、車いす利用時の介助者の負担が大きくなる。
- ・玄関からは、台車利用時の木製スロープを利用することで、入りやすくなる。
- ・施設内の展示は台の高さや前面がガラスの展示什器で、車いす利用者にも見やすい。
- ・駐車場から施設へのアクセス路とトイレが課題。トイレは車いすに対応していないため、別の施設の車いす用トイレを利用することになるが、近隣施設の場所や道順等を記載したチラシや町のサイト等の情報発信もあわせて行えると良い。
- ・発掘調査が行われた場所(島内の畑地等)の見せ方とあわせて、埋蔵文化財は、喜界島の重要な文化資源でもあるので、幅広い利用者を想定したアクセス路の整備が必要。



廃校利用のため入口は小学校時代の階段があり、車いす利用者は、建物側面から入る。





⑪喜界島酒造:工場見学ができる黒糖焼酎の酒造(見学はコロナの状況を勘案)。

現地調査所見

- ・工場見学は車いすで入ることができる通常とは別のルートで入場。工場内はグレーチング等の注意箇所があるが、概ね段差等は無く、通路幅員も確保されている。トイレは車いすに対応していない。
- ・1回の受入れ人数は15人程度、説明は30分程度の時間を要するが、見学者の要望に応じて短くすることもある。前日までの予約が必要。



⑫朝日酒造:中心市街地近くに立地する工場見学ができる黒糖焼酎の酒造(見学はコロナの状況を勘案)。

現地調査所見

- ・工場見学は通常のルートで入場するが、見学コースは階段があるので車いすは限定的なコースになる。工場内はパイプの乗り越えや段差があるが、空間に余裕があり、原酒のタンク等を見ることができる。トイレは車いすに対応していない。
- ・1回の受入れ人数は15~20人程度、説明は30分~1時間を要する。前日までの予約が必要。



### 【現地調査で把握された課題】

島内に車いす対応の公衆トイレが少ないため、確実に利用できる施設や公園等の把握が必要な状況である。車いす対応トイレのある主要な施設を広く情報提供することも併せて望まれる。

(画像左から、ゆいカフェ/農産物加工センター、阿伝集落、スギラビーチ)。



喜界島の主要な観光立ち寄り先である廃校利用施設2か所は、小学校の建物を転用しており、入口のバリアフリー化が急務と考えられる。特に、喜界島の歴史文化を知る資料展示のある埋蔵文化財センターは、車いす利用者にとって駐車場からのアクセスが非常に難しく、介助者の負担も大きい。

(画像左から、階段を迂回する勾配のきつい未舗装の通路、玄関へ続く通路の段差、未舗装と舗装が混在する通路)



### (3) 現地調査から得られた喜界島のモデルコース(案)

喜界島のモデルコース(案)では、現地調査によって把握された課題を踏まえながら、喜界島らしい景観を構成しているサンゴ礁や遺跡に触れながら観光を楽しむことを念頭にモデルコースを検討した。

具体的には、島内の廃校利用施設や酒造の見学を取り入れ、車いす利用者や個人旅行の高齢者、小さな子供連れの家族等が利用できるようなコースとし、車いす対応のトイレのある立ち寄り先を組み込むこととした。また、国立公園からの眺望や、雨天時の過ごし方も想定したモデルコースを検討した。

喜界島(サンゴ礁と生活文化と雨天時の立ち寄り)モデルコース(案)

		時刻		行動予定	備考	
		(発)	(着)			
1 日 目	移動	9:20	9:40	0:20	奄美大島→喜界島(JAL3831)	<国内第2位の短い航空路線> 以下、移動は車両利用を想定
		9:40	10:00	0:20	空港→スギラビーチ	
	観光	10:00	10:20	0:20	スギラビーチ:海浜の散策	
	移動	10:20	10:50	0:30	テーバルバンタと百之台へ移動	
	観光	10:50	11:30	0:40	テーバルバンタと百之台からの眺望	
	移動	11:30	11:50	0:20	農産物加工センターへ移動	
	昼食	11:50	13:15	1:25	ゆいカフェで昼食、買い物	
	移動	13:15	13:30	0:15	大ガジュマルへ移動	
	観光	13:30	13:45	0:15	大ガジュマル:巨木の鑑賞と撮影	
	移動	13:45	14:00	0:15	阿伝集落へ移動	
	観光	14:00	15:30	1:30	阿伝集落:集落あるき	集落あるきガイドが同行
	移動	15:30	16:00	0:30	宿泊施設へ移動	
	夕食	16:00			チェックイン、休憩、夕食	
	2 日 目		9:30	9:30	0:00	ホテル出発
移動		9:30	10:00	0:30	サンゴ礁科学研究所へ移動	
観光		10:00	11:30	1:30	サンゴ礁科学研究所:展示を見学	
移動		11:30	12:00	0:30	早町で弁当購入、塩道長浜公園へ	早町のローカルスーパー利用
昼食		12:00	13:00	1:00	塩道長浜公園で昼食	
移動		13:00	13:20	0:20	サトウキビ畑の一本道へ移動	
観光		13:20	13:45	0:25	サトウキビ畑の一本道で記念撮影	
移動		13:45	14:30	0:45	ホテルから空港へ移動	途中、空港近くの土産物店で買い物
		15:05	16:10	1:05	喜界島→鹿児島(JAL3784)	

喜界島2日目～雨天の場合

2 日 目		9:30	9:30	0:00	ホテル出発	
	移動	9:30	10:00	0:30	サンゴ礁科学研究所へ移動	
	観光	10:00	11:30	1:30	サンゴ礁科学研究所:展示を見学	
	移動	11:30	12:00	0:30	湾集落へ移動	
	昼食	12:00	13:00	1:00	湾集落の飲食店で昼食	
	移動	13:00	13:15	0:15	黒糖焼酎の酒造へ移動	
	観光	13:15	14:15	1:00	黒糖焼酎の酒造:工場見学	
	移動	14:15	14:45	0:30	空港へ移動	途中、空港近くの土産物店で買い物
			15:05	16:10	1:05	喜界島→鹿児島(JAL3784)

### 3-3 現地調査で把握された課題と奄美群島内の解決策事例

与論島および喜界島の現地調査で把握された課題とあわせて、令和2年事業および本事業で実施した奄美群島内の現地調査より、ユニバーサルツーリズムの課題解決について、奄美群島内で実施されている解決策の事例を以下に示す。

#### (1) 現地調査で把握された与論島の課題

与論島の現地調査では、島の主要な観光資源である多くの海浜について、ユニバーサルツーリズムのコンテンツとして利活用する際、通常の観光とは異なる楽しみ方や見せ方が必要であることが分かった。

通常の観光では海浜の楽しみ方として、海浜から波打ち際を経て楽しむ海水浴やシュノーケリング、ダイビング、SUP等のマリナクティビティ、グラスボートに乗船する百合ヶ浜への瀬渡ししが一般的であるが、車いす利用の観光の場合、海中に入って海浜を楽しむコンテンツやグラスボートへの乗下船はハードルが高く、砂浜の車いす移動も非常に労力を要するため、与論島の多くの海浜や海は、高台からの眺望、隣接する場所からの眺望、自動車で近づける場所からの眺望等の視点の高さと眺望する場所を変えた楽しみ方を検討する必要がある。

観光の立ち寄り場所となる拠点施設は、島内各所に整備されているが、段差やスロープの勾配等のアクセスに関する問題も散見されるため、車いす利用者が楽しめる施設や場所は限定的になる。

他方、島内には非常に多くのトイレが整備されており、その中には車いすに対応しているトイレも比較的多いので、これらを集約して情報発信することが望まれる。

#### (2) 現地調査で把握された喜界島の課題

喜界島の現地調査では、島の特徴の根幹にあるサンゴ礁について、科学的、歴史的、文化的な各種の視点から島の観光をどのように楽しんでもらうのか、が大きな課題であることが分かった。サンゴ礁に対するこれらの視点については、既に廃校を利活用した拠点施設が整備され、稼働しており、文化的なコンテンツとしての「集落あるき」の体制も整っている反面、廃校利用施設のバリアフリー化や車いすに対応したトイレの整備といった、ハード面での施設整備が大きな課題となっている。

車いすに対応したトイレは、島内全体でも少ないため、観光拠点以外に公共施設や交通拠点施設等も含めてユニバーサルツーリズムで利用することが必要になる。

また、島内の代表的な観光地の1つである百之台は、奄美群島国立公園になっているため、公園からの眺望を確保するための樹木の伐採に制約があり、視点が低い車いす利用者の場合、百之台から眼下を見渡す眺望の確保が非常に難しい状況にある。NITの光回線ケーブルが敷設されている場所に整備されているテーパルバンタの展望台でも同様の課題がある。

一方、百之台国立公園が位置する高台の地盤を形成している崖地の崩落といった安全面の課題とともに、経年による公園施設の老朽化や陳腐化等の施設整備上の基幹的な課題が散見された。

### (3) 奄美群島内で実施されている課題解決策事例

奄美群島のユニバーサルツーリズムの推進では、群島内の各島でも様々な取り組みが実施され、それらは同様の課題を持つ他の島の課題解決につながるものと考えられるため、令和2年度事業および本事業の中で確認された課題解決策について、以下に示す。

#### 【バリアフリー展望台整備事例・徳之島ムシロ瀬(天城町)、沖永良部島田皆岬(知名町)】



奄美群島内でもバリアフリーに対応した展望デッキの整備例が見られた。画像は徳之島のムシロ瀬と沖永良部島の田皆岬だが、他に瀬戸内町内のマネン崎にもスロープの長い比較的大規模な展望デッキが整備されている。これらのデッキの手すりの高さが車いす利用者の目線の高さになっている点は非常に残念であり、今後の施設整備の改善点といえる。

#### 【崖地の展望台整備事例・奄美大島あやまる岬(奄美市)】



奄美大島のあやまる岬の展望デッキは、崖地の上部に整備されている。デッキ入口が3段程度の階段になっているが、この部分がスロープであれば、車いす利用者もデッキ上に上がることが容易になる。崖地の上の展望スポットの参考にもなる事例と考えられる。

#### 【バイオトイレの整備事例・奄美大島宮古崎(大和村)/画像は大和村HP※より転載】



※大和村の関連サイト URL

<https://www.vill.yamato.lg.jp/ki/kaku/shi/setsu/kanko-spot/002.html>

上下水道が敷設されていない場所にバイオトイレを設置した事例。バリアフリー対応のトイレではないが、水を使わずバクテリアがし尿を分解処理する方式が採用されており、上下水道の整備が不要のため設置費用の低減が期待できる。

奄美群島のユニバーサルツーリズムで大きな課題となっている車いす対応のトイレについては、島内のどこに行けば、車いすに対応したトイレがあるのかを広く伝えることも課題解決につながる。

以下の事例は、与論島内で確認した車いすに対応しているトイレの情報提供の事例である。

【群島内の観光施設のトイレ情報提供事例・与論島サザンクロスセンター(与論町)】



与論島のサザンクロスセンター（5階建）のエレベーター内に貼られている各フロアのトイレ情報を示すチラシ。トイレの形式と設置階が一目瞭然に整理されており、非常に分かりやすい。

【群島内の観光施設のトイレ情報提供事例・与論島内のトイレ情報(与論町商工観光課)】

